

母から娘へ

一枚の手型が奏でる、殺しの子守唄。

とおりやんせ とおりやんせ
ここはどこか ほそ道じゃ
天神さまの ほそ道じゃ
ちいっと通してくだしやんせ
ご用のないもの、通しやせぬ
この子の七つのお祝いに



この子の七つの お祝い

松竹株式会社 角川春樹事務所提携作品

志麻 根津 岩下
ハリ子 甚 津
マユミ 葉と 根
伸介 中 津
今二 原 見
郎 中 中
男 岸 田
章 坂 上
宏 日 古
待 屋 浦
夫 六 林
繁 稔 井
直 国 山
樹 杉 浦

製作 角川春樹
プロデューサー 岡田裕介
中川完治
原作 齊藤 清
(第1回横溝正史賞受賞作)
カシカフ・ヘルズ博
脚本 松本ひろし
増村保造
監督 増村保造

撮影 小林節雄
美術 間野重雄
音楽 大野雄二
製作協力 オフィス・ヘンミ

松竹映画

蒲田行進曲

人生感動!

どこを好きになつたって?
もちろんあんたのセコさよ!



松坂慶子 風間杜夫 平田満 高見知二 原田敬三 高江敏三 岡本麗 沼本美 曾根晴 柳兵衛 榎本美 高丸謙二 石原敬三 藤原敏也 佐藤昭也 清水重也 清川虹子 友清出演 志穂美悦子 真田広之 千原しのぶ 友清出演 角川春樹 製作 松竹映画 企画 松竹映画株式会社 製作協力 東映京都撮影所

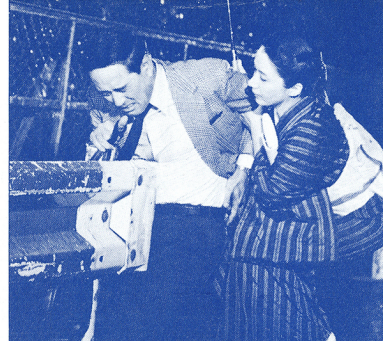


この子のお祝いに

「この子の七つのお祝いに」は極めて悲しい親と子の物語です。

映画のなかで、母と娘、父と娘、女の悲しみなどが多岐にわたり張りめぐらされているが、一貫してこの作品を支えているのは、主人公が七才の時に遭遇した最愛の人の死がもたらせた怨念でもありません。

主人公ゆき子、彼女の親友である謎の女青蛾、



若き日の真弓、事件を追うルポライター母田、新聞記者須藤らを中心に物語は思いもよらぬ方向に展開してゆきます。
原作は初の作品が、「第一回横溝正史賞」受賞作品となり、更に映画化と幸運なスタートをきった斉藤渥。
ゆき子にはS53年度に

増村保造

●演出ノート

この作品は一見すると、巧妙で残酷な三つの殺人事件を扱い、それを血の手型、政界の黒女など伝奇的な色彩の中で展開させ、最後は意表を突くどんでん返しが痛くつた見事な推理劇のようである。しかし深く読むと、終戦直後の暗黒な社会の中で、子供を殺された夫に捨てられた女の哀しくも怖ろしい復讐を徹底的に描いた小説である。一切を無視して一念を貫き通す女の嫉妬の凄まじさには恐怖さえ感ずる。



「鬼畜」で好評を得て以来、五年ぶりに松竹出演の岩下志麻が重厚な演技をみせる他、事件記者須藤には、女性ファンを中心に幅広い層から支持されている根津甚八が松竹初出演、そのほか、芦田伸介、岸田今日子、室田日出男らのベテランが脇を固めています。

演出は「大地の子守唄」、「曾根崎心中」など女の情念の表現を探究しながら、広い分野にわたって数々の優れた作品を創りつづけてきた増村保造が、岩下志麻、根津甚八との初顔合せに、大いに意欲を燃やして取り組んでいます。

第86回直木賞作品「蒲田行進曲」が、原作者つかこうへい自身のシナリオによって初めて映画化されることになった。

これまで「熱海殺人事件」（昭和49年）岸田戯曲賞、「ジャイアンツは負けない」、「いつも心に太陽を」等の作品で数多くのファンを掴んできた彼は、映画シナリオという新しい世界でも若者の心を揺り動かすであろう。

撮影所を舞台に、見栄っぱりで、ケチで、女にだらしないけれど、役者としての華々をもっている銀ちゃん、そんな銀ちゃんをこよなく愛している

深作欣二

●演出ノート

この十数年「斜陽」や「霧」と言われて来た映画界に、未だにしがみついているカウボーイ屋の一人として、つかこうへい氏の原作には大いに感動されるものがあった。同じカウボーイ屋でもマジョリに拒絶反応を感じる向きもあつたが、これはおかしき哀しい人間どもの、報われることなき情念のドラマである。一読して私は、爆笑し、泣き、すぐに映画化したい欲求にとりつかれた。

原作のモトである芝居の方は、私は残念ながら見る機会を得なかったが、その録音テープは、事前にくり返し味わい続けた。そして今、私なりの解釈のもとに「蒲田行進曲」映画化にとり組んでいる。

映画を見た観客の方々が、原作に触れた私と同様、泣き、笑い、悔悟して手に汗握るようなそんな作品に仕上がってくれたら、私はまったく云うことがない。



●主題歌「恋人も濡れる街角」歌／中村雅俊
作詞作曲／桑田佳祐
●挿入歌「蒲田行進曲」（オリジナルサウンドトラック）
LP コロムビア・レコード
作曲／RUDOLF FRIML
訳詞／堀内敏三
歌／松坂慶子 風間杜夫 平田 満



春の門、「道頓堀川」などで常に日本映画界に新風を巻き起している深作欣二。古巣・京都撮影所にもどった監督は、映画村をフルに使い、喜劇タッチで古くて新しく、楽しくても悲しい映画製作の舞台裏と、俳優たちの生感を、イキイキとしたカメラワークで描いている。

蒲田行進曲

前売券——**10月9日**（土曜）**大公開!!**
絶賛発売中

道頓堀 かに道楽向い **浪花座2**
☆211-1431